市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす

PARTNERSHIP

病院広報・医療連携誌
Vol.36
2021.5

鹿児島市立病院だより

特集

新型コロナウイルス診療の最前線

特別企画 **就任のごあいさつ**

TOPICS

組織体制の整備
体制の強化と効率化を図り、病院機能の高度化をめざす

高度医療機器の整備
最新3T MRI装置に更新して、短時間で高画質な画像を提供する

連載企画

市立病院×かかりつけ医「鹿児島医療連携」最前線

インタビューシリーズ9

社会の変化に柔軟に対応し、進化する看護部でありたい

上村 聡美 看護部長

社会の変化に柔軟に対応し、進化する看護部でありたい

鹿児島市立病院 看護部長／**上村 聡美**

● INTERVIEWER／**有薗 京子** 医療連携・入退院センター 看護師長

“ここに看護はある”と、自信をもって言えるように

Q：トップマネージャーとしての抱負は?

新たに2名の副総看護師長を迎え、新体制でスタートしました。就任してまだ1ヶ月ですが、日を追うごとに重責を感じています。

今年は看護部の理念でもある「心のこもった看護」を実感できる年にしたいです。今や医療は高度化・集約化され、現場の看護師は入院期間の短縮や重症化の重圧にさらされています。“ここに看護はあるのだろうか”と疲弊し、やりがいを見失うスタッフがいることも事実です。そこで「患者のそばにいる看護」を実現すべく、看護提供方式を見直し、実践しているところです。目の前に患者がいる…声が届く…。より近くに相手を感じることで、見えてくるもの、差し伸べる手も変わってくるでしょう。看護師一人ひとりが患者に寄り添い、“ここに看護はある”と自信をもって言える。そんな時間をみんなで共有したいですね。

Q：新看護部が取り組む課題は?

まず一つ目は、「COVID-19の院内感染対策」です。

感染管理認定看護師を二人専従制にし、COVID-19の体制はこの1年で整備されました。第4波が懸念されるところですが、看護部では、昨年結成したCOVID-19対応チーム（各病棟からの選抜メンバー）を存続させ、看護部全体で取り組むことに変わりありません。おそらくこれから長い間、新しい生活様式で新型コロナウイルスと共存していくことが求められるでしょう。いかなる時も“看護師は何をすべきか”という揺るぎない使命感を持つことが重要です。当院は第2種感染症指定医療機関、地域医療支援病院でもあります。現在の体制を維持・継続し、新型コロナウイルス感染症に適切に対応しながら、より一層地域と密に連携を図っていかなくてはならないと思っています。

二つ目は、人材確保と育成のための3つの取り組みです。

①「助産師・看護師採用試験への推薦枠導入」今年度60名の新規採用者を迎え（うち5名は医療ソーシャルワーカー）総勢902名の大所帯となりました。しかし、医療の動向や社会的背景に鑑みると、高度急性期に見合う人員はまだまだ十分とは言えず、「人員確保・人材確保」は喫緊の課題です。そこで採用試験を見直し、公募推薦を導入することとなりました。我々としても「誰もが働き続けられる病院」「魅力ある病院」になれるよう努力が必要だと思っています。

②「新看護提供方式KCHナーシングシステムの導入」この方式の目的は『患者のそばにいる看護』です。一般に言われるPNSとセル方式を組み合わせた当院オリジナルの方式になっています。各病棟で始めたばかりですが、今後評価を重ねて年内には定着させたいですね。

③「看護師特定行為研修センターの開設」2年間の準備を経て、4月1日に開設できたことは大変喜ばしいことです。今年は院内から募集した4名の研修生でスタートしました。特定看護師の存在は、病棟看護師をはじめとした他のメディカルスタッフからの信頼を得るとともに、チーム医療の要となるでしょう。これからもスタッフのキャリアプランを支援し、看護サービスの質を担保できるよう取り組んでいきます。次年度は、院外からも研修生を公募する予定です。

「市立病院再整備計画」に看護部としても貢献したい

Q：最後に今後の展望をお聞かせください。

令和3年度は、院長先生主導のもと「鹿児島市立病院再整備計画の策定」に向けプロジェクトチームが結成されます。一大組織である看護部もその期待に応えられるよう貢献できれば幸いです。社会の変化に柔軟に対応し、進化する看護部でありたいですね。大きな課題ですが、新米部長1年目…皆さんの知恵を拝借しながら精一杯努めていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

病院長コラム

ワクチン接種が感染拡大抑制の切り札に

本号も、新型コロナウイルス感染症のワクチンについてお話したいと思います。

今年2月から国立病院機構などの医療従事者約4万人を対象にファイザー社のワクチン接種が始まり、次いで全国の医療従事者を対象とした接種が進んでいます。当院でも、3月から現在も職員などを対象に接種が行なわれています。最初のワクチン配給による1回目接種者は658人、有害事象の回答者は555人（回答率84.3%）で、最も多い有害事象は注射部位疼痛70.8%、ついで筋肉痛32.4%、発熱は1.2%（>37.5℃）、あらかじめ渡していた解熱鎮痛薬服用は13.5%で、無症状は16.3%でした。2回目接種者は643人で、有害事象の回答者は460人（回答率71.5%）で、最も多い有害事象は注射部位疼痛80.4%、次いで疲労感53.4%、筋肉痛46.0%、頭痛42.3%、発熱37.1%で、解熱鎮痛薬服用は54.1%に達しています。無症状者はわずか8.4%で、60歳未満での解熱鎮痛薬服用は55.3%でした。なお、アナフィラキシーショックは当院では認められず、海外のデータでも頻度は極めて稀です。このデータから、主な有害事象は注射部位を含めた疼痛、疲労感、発熱などで、発生率は1回目より2回目が、高齢者より若年者の方が高く、2回目には半数以上が解熱鎮痛薬を服用していることが分かります。

このウイルス感染症の今後ですが、ワクチン接種の有無にかかわらず、ほとんどの国民がこのウイルスに暴露されて、免疫を獲得し、長い年数かけて風邪ウイルスやインフルエンザウイルスのようなウイルスになっていくのだろうと推測されます。mRNAワクチンの長期的な有害事象については、誰も回答を持ち合わせていません。しかし、ウイルス遺伝子がヒトの遺伝子に取り込まれている事実やそれによって人類が進化してきたことを考えると、このmRNAワクチンだけを恐れることの意味はないと思います。

新規感染者はワクチン接種が大きく進んでいるイギリス、イスラエルでは著しく減少し、1日30万人に達していたアメリカでさえも3万人以下になっています。4月末から九州でも急激な感染拡大が起こっていますが、ワクチン接種は感染拡大抑制の切り札になる可能性があります。残念なことは、日本のワクチン接種率が世界で100位以下ということですが、国はワクチンの有効性および有害事象を正しく国民に伝え、早急に接種体制を整備する必要があります。当院も、このワクチンについては感染拡大を防止するという観点から、土日を利用して接種に参加する予定です。

（令和3年5月12日）

坪内 博仁
病院長

TOPICS 1 組織体制の整備

体制の強化と効率化を図り、病院機能の高度化をめざす

堀 剛 副院長

令和3年4月1日より鹿児島市立病院組織図の変更を行いました。組織の変更により体制の強化、効率化を行い地域の中核病院としての病院機能の高度化を図ります。

1)がん治療・支援センターの拡充・組織再編

当院の果たすべき役割の一つであるがん診療の充実を図り発展させていくために、がん治療支援センターを「がん治療・支援センター」と組織名を変更し、治療部門と支援部門を明確化しました。治療部門に中央診療部門より外来化学療法部を編入し、緩和ケアセンターとともにがん治療の横断的な役割を担うことを目的としています。また支援部門にがん相談支援センター、院内がん登録室とともにがんゲノムカウンセリング室を新設いたしました。当院は令和3年4月よりがんゲノム医療連携病院として認定され、鹿児島医療圏におけるがんゲノム医療の中心的な役割を担う事が責務とされます。がんゲノムカウンセリング室をがん治療・支援センター内に組織化し、がんゲノムカウンセリングを含めた先進的ながん医療を提供できる体制を整えました。

2)看護師特定行為研修センターの新設

看護師による診療の補助を高度化することはチーム医療を推進し、医療提供体制の充実を図るため重要になります。当院は令和3年2月に特定行為研修指定研修機関として認定されました。高度かつ専門的な特定行為の知識・技能の習得が行えるよう看護師特定行為研修センターを医療支援部門に新設し、積極的に人材育成を行える組織体制としました。

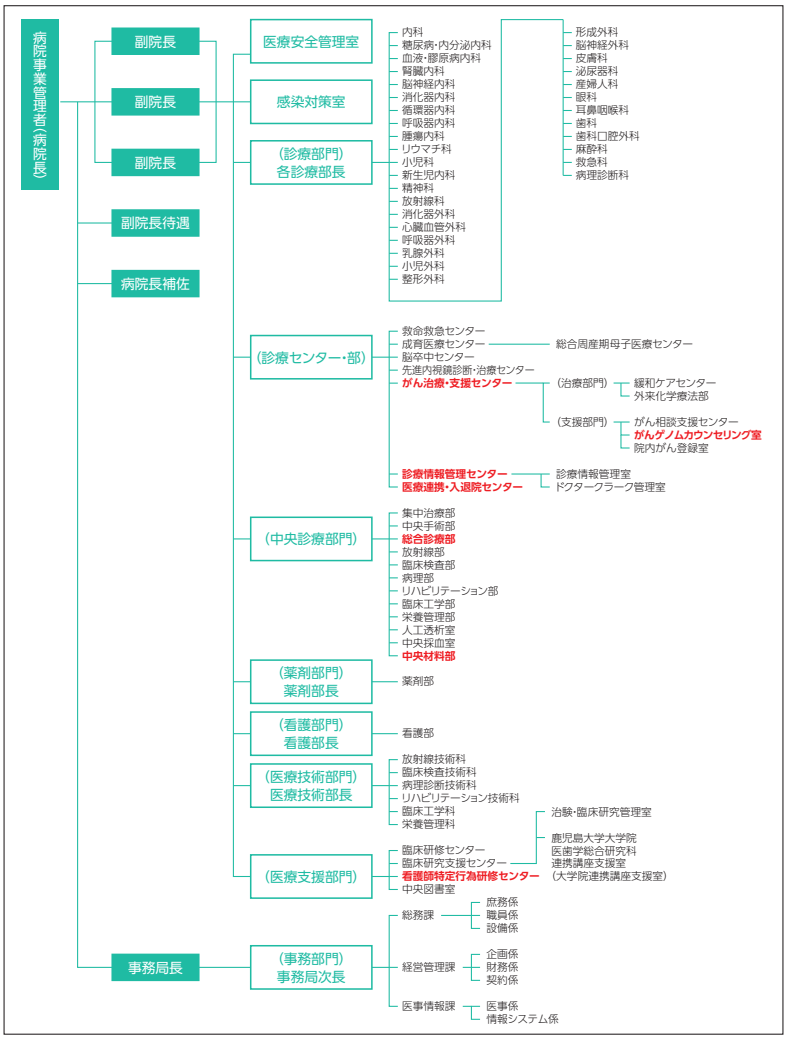
3)診療情報管理センターおよび医療連携・入退院センターの診療センターへの組織変更

診療情報管理室、ドクタークラーク管理室を統括する診療情報管理センターをセンター化し中央管理体制を整え、さらに医療連携・入退院センターを臨床現場への関与を強くスムーズに行えるように診療センター・部へ移設しております。

4)総合診療部および中央材料部の中央診療部門への組織変更

総合診療部は中央診療部門へ移設し、各診療科、各診療部部門との連携ができる横断的な診療部門として機能できるように組織変更しております。また中央材料部においても中央材料室より中央材料部へ名称変更し、中央診療部門へ組織変更しており、その役割を拡大させ院内物流の拠点機能がより活性化することを目的としました。

以上令和3年度の組織図変更の要旨をご説明させていただきました。組織変更により地域医療のニーズに応じた高度な医療提供体制の構築を目指しております。



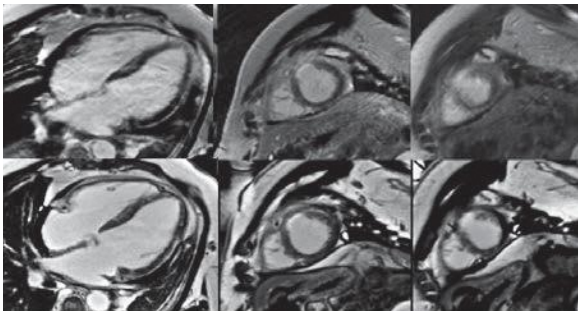
◀鹿児島市立病院組織図(令和3年4月1日)

最新3T MRI装置に更新して、短時間で高画質な画像を提供する

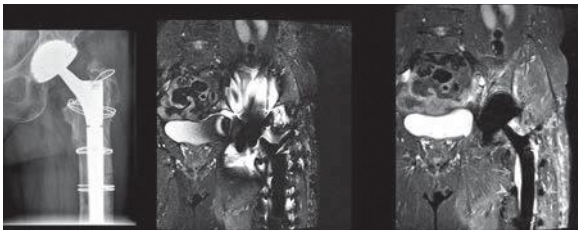
西元 辰也 放射線技術科 主幹

▲各診療科からの画像情報提供のニーズに応えるため日々努力を続ける放射線技術科のスタッフ一同

◀今回更新された新型3TMRI装置MAGNETOM Lumina。装置の高速化・高画質化で患者のストレス軽減にも大きく寄与している



▲心筋梗塞疑いPSIR
(上段)息止め不良例 (下段)自由呼吸HeartFreez利用例



▲股関節Implant(左)
一般撮影通常STIRとSEMAC STIRの比較(右2点)

より高レベルな精密検査で診断価値の高い画像を

放射線技術科は放射線科医師、外来検査治療室看護師とともに放射線部として、各診療科のニーズに応え様々な画像情報の提供を行っております。今回ご紹介するMRI部門では昨年度、新規3T MRI装置が導入され、3台体制となり、緊急検査や救急患者に対しても、より柔軟な対応が可能となり予約待ち日数の減少に寄与しました。看護師が1名配属され、造影検査や患者入替等のスループットも改善されました。更に今年2月に3T MRI装置の更新が行われ、精密な検査に対応できる装置が増え短時間で高画質な画像の提供を行えるようになり、患者のストレス低減にもつながりました。最新型のMRI装置を導入し3T装置2台、1.5T装置1台の3台体制で、診療科の様々な検査依頼を受け、600人/月の検査を目標として医師、看護師と協力し、よりレベルの高い精密検査、診断価値の高い画像提供に努めています。

装置の特徴を最大限に活かし、検査枠の拡充を図る

今回更新した装置の特徴は以下のとおりです。

①様々な高速撮影を組み合わせて使用することで、より短時間で高画質な画像取得が可能となりました。

②息止め管理や動きの抑制が難しい場合でも、通常呼吸下で胸腹部領域の3D撮影が可能となりました。さらに、高い空間分解能を維持したまま、多時相3Dダイナミック撮像が可能となり、最適な造影タイミングでの撮影が可能となりました。

③その他、寝台については脱着が可能で、低床化設計により寝台への移動がスムーズとなっています。本体はショートガントリー構造でかつ、ボア(装置の開口部)が70cmと開放的な検査環境となり閉所恐怖症や不安のある患者の精神的負担の軽減につながっています。

④MRI特有の騒音をバックグラウンドノイズレベルまで低減することが可能となり、特に新生児・小児に有用で、小児専用のコイルも導入いたしました。

今後も、3T MRI装置と1.5T MRI装置の特徴を最大限に活用して検査枠の拡充を行い、予約待ち日数の解消に努めるとともに、検査内容の充実を図り診療科に有用で高画質なMR画像の提供を行ってまいります。

にしもと・たつや

診療放射線技師
放射線管理士
放射線機器管理士
日本放射線技術学会会員
日本診療放射線技師会会員
日本核医学技術学会九州地方会理事

希望が見出だせるような診療を心がけたい

令和3年4月1日より血液膠原病内科部長に就任した川田英明と申します。私が市立病院に赴任して9年目であり、血液膠原病内科が内科から独立して3年目となります。赴任当初は、病院内外で当科はあまり認識されておらず、入院患者なしの状況からのスタートでした。現在では、鹿児島大学病院血液膠原病科医局の協力のもと4人体制で診療しております。入院診療は、8南病棟を中心に主に血液腫瘍の患者さんと重症の膠原病の患者さんの治療を行っております。多方面の方々の御協力のお陰で、内容の濃い診療ができていると考えております。現在、コロナ禍で渡る世間は重苦しい雰囲気が漂っておりますが、そういう時代だからこそ束の間でもほっとして希望が見いだせるような診療ができればと思います。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

(かわだ・ひであき)
医学博士／日本内科学会総合内科専門医 指導医／日本内科学会認定医／
日本血液学会専門医 指導医／日本リウマチ学会専門医

血液・膠原病内科部長｜**川田 英明**

必要とされる放射線科・放射線部を目指して邁進していく

この度、放射線科部長に就任致しました中山博史と申します。市立病院は、救急医療、周産期・小児医療、がん治療と疾患は多岐にわたっており、画像診断医として20年以上のキャリアになりますが、教科書に記載されているような稀な疾患に遭遇し、逆に知名度の高い疾患でも個々の差異が大きく、新たな、多くの経験を積ませてもらっています。そのため、現在の自分の立ち位置に非常に重圧を感じています。どこまでやれるかわかりませんが、必要とされる放射線科・放射線部を目指し、試行錯誤、邁進していきたいと思います。少し、頼りない挨拶になりましたが、多くの方々の支援があってこそ着実に歩みを進めることができると感じています。これからもご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(なかやま・ひろふみ)
日本医学放射線学会放射線診断専門医

放射線科部長｜**中山 博史**

腎不全への移行率を低下させるため、腎障害の診断に注力

この度腎臓内科部長を拝命しました。2015年市立病院に私が赴任し“内科”の中での腎臓内科が始まり、2019年に腎臓内科として独立し、現在に至ります。鹿児島は全国でも人口当たりの透析導入率が高く、早期の診断・治療を行うことにより腎不全への移行率を低下させたいと考えております。そのため腎障害の診断には特に力を入れており、ご紹介頂いている先生方のご協力により多数の腎生検を行っております。また当院は他科との連携により様々な病態にも対処できますので、その強みを生かしていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(のさき・つよし)
医学博士／日本内科学会総合内科専門医 指導医／日本内科学会認定医／
日本腎臓学会腎臓専門医 指導医／日本透析医学会専門医 指導医

腎臓内科部長｜**野﨑 剛**

多くの市民から信頼される病院としてさらに発展していくために

４月１日より事務局長を拝命いたしました。創立８０周年を迎え、安心安全な質の高い医療を提供している市立病院の一員として仕事ができることを光栄に思っております。

今年度は、再整備計画と経営計画を策定することになっており、当院の新たなステージに向けて大変重要な時期になると考えております。

これからも多くの市民から信頼され頼りにされる病院としてさらに充実・発展していくよう、事務局としての責任を果たしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局長｜**尾堂 正人**

日々進歩し前進する呼吸器内科を目指して

2021年4月、鹿児島市立病院呼吸器内科部長を拝命致しました。当院は鹿児島市、鹿児島県の中核病院の一つであり、私たち呼吸器内科も様々な疾患の、多くの患者様の診療をお任せいただいています。

2020年初旬に国内で新型コロナウイルス感染症患者が確認され、鹿児島県でも多くの患者が発生し、住民の皆様には日常生活の制限など、大変なご苦労をおかけしています。当院では、鹿児島県下の多くの医療機関と連携し、特に重篤な新型コロナウイルス感染症患者様の診療を行っています。

少しでも早く安全で安心な日々を取り戻せるよう、また皆様の御期待に応えられるよう、研鑽を積んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(もみ・ひろあき)
日本内科学 総合内科専門医 認定内科医／日本呼吸器学会 呼吸器専門医 指導医／日本呼吸器内視鏡学会 専門医／
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医／日本航空医療学会 認定指導者

呼吸器内科部長｜**籾 博晃**

皆様に満足いただける医療を

循環器内科科長｜**奥井 英樹**

(おくい・ひでき)
医学博士／日本循環器学会専門医／日本内科学会認定医／日本内科学会総合内科専門医／臨床研修指導医／日本不整脈心電学会不整脈専門医／難病指定医／日本内科学会／日本循環器学会／日本不整脈心電学会

この度循環器内科科長に就任しました奥井英樹です。「痛い」「苦しい」「動悸がする」「めまいがする」などの患者様の症状、不安に寄り添った診療を心掛けています。同時に、緊急性疾患、難治性疾患においては、院内、ときには院外の先生方のご指導も仰ぎながら全力での救命に取り組んでまいりたいと思っております。県民、市民の皆様のために満足いただける医療を提供できるよう努力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

循環器内科科長｜**神園 悠介**

(かみぞの・ゆうすけ)
日本内科学会 総合内科専門医／
日本内科学会 認定医／
日本循環器学会 循環器専門医／
日本心血管インターベンション治療学会認定医／
日本リハビリテーション学会指導士

鹿児島の循環器医療に貢献を

2021年4月1日付で鹿児島市立病院に着任しました神園です。

循環器内科医として、これまで鹿児島県内のいろいろな病院で勤務してきました。鹿児島市立病院は、旧病院を含め2回目の赴任であり、身の引き締まる思いです。

当院はドクターヘリを運航する高度救命救急センターがあり、多岐にわたる循環器疾患が搬送されてきます。微力ながら、鹿児島の循環器医療に貢献できるよう頑張る所存ですので、何卒宜しくお願い申しげます。

患者だけでなく院内スタッフすべてのメンタルケアを

この度精神科部長に就任しました肝付洋と申します。鹿児島市立病院には自殺企図患者の救急搬送例が多いため、身体的加療後のケースワークがスムーズに進むように入院直後からの精神的フォローを心がけたいと思います。またすでに稼働している緩和ケアチームと認知症ケアチームにおいても介入件数の増加や入院患者のQOL向上を目標に活動を活性化させていこうと考えております。さらに現在も続くCOVID19患者の入院に関しては患者自身のメンタルケアのみならず担当する看護師をはじめとする医療スタッフの精神的サポートも常時行ってまいります。院内のスタッフすべての方々の相談を引き受けますのでお気軽にお声掛けいただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

(きもつき・ひろし)
日本精神神経学会／日本総合病院精神医学会／九州精神神経学会／精神保健指定医／精神科専門医・指導医／精神保健判定医／
日本総合病院精神医学会専門医・指導医・特定指導医

精神科部長｜**肝付 洋**

県内の肝胆膵外科の一翼を担う

消化器外科科長｜**飯野 聡**

(いいの・さとし)
医学博士／日本外科学会専門医／日本消化器外科学会専門医・指導医／日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・評議員
(所属学会)
日本外科学会／日本消化器外科学会／日本肝胆膵外科学会／日本内視鏡外科学会／日本臨床外科学会

2021年4月1日より赴任しました。前任地の鹿児島大学病院では主に肝臓外科を担当して参りました。肝胆膵外科の専門施設である日本肝胆膵外科学会高度技能修錬施設は、鹿児島県においては鹿児島大学病院以外で当院が唯一です。鹿児島市内のみならず、鹿児島県下の肝胆膵外科医療への要求に高いレベルで対応するよう努めたいと思います。

経験を生かし、質の高い医療を

脳神経外科科長｜**大吉 達樹**

(おおよし・たつき)
日本脳神経外科学会専門医 指導医／
日本脳卒中学会専門医 指導医／
日本神経内視鏡学会技術認定医／
日本小児神経外科学会認定医 評議員／
がん治療認定医

令和3年4月1日より鹿児島市立病院脳神経外科科長を拝命しました。当院は15年前に1年半、旧鹿児島市立病院の時に勤務させていただき、それから15年目に戻ってきたことになります。以前の病院に比べ、ハード面だけでなく、医療の質や高さも格段に向上し、鹿児島県を代表する中核病院になっており、感激しました。当院は脳卒中センターや成育医療センター等を有し、小児から成人まで切れ目のない高度急性期医療を担っております。私の専門分野である脳卒中や小児神経外科領域の医療にこれまでの経験を生かして、一生懸命、尽力する所存でございます。鹿児島県民のためにさらなる質の高い医療を提供できるように日々、精進したいと思いますので、何卒、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

市立病院の機能を守るための感染予防

感染管理認定看護師 土屋 香代子

院長のリーダーシップの下、組織全体で取り組む感染対策

2020年3月、鹿児島県で1人目となる新型コロナウイルス陽性患者が確認されました。鹿児島市立病院ではこの1年間、主に中等症Ⅱから重症の患者約60名を受け入れましたが、本稿では、この間の当院における取り組みについて紹介させていただきます。

感染対策は病院組織全体で取り組まなければなりません。当院では院長の強いリーダーシップにより、関連職員の出席のもと、週に1回感染対策会議を行って参りました。また新規患者発生数の多い時期は、目まぐるしく変わる感染状況に遅滞なく対応できるように、コアメンバーだけで毎日対策会議を実施しました。この会議では、現在でも週に1回、入院症例の検討、感染症病床や検査体制、医療機器の整備、人員確保などについて話し合っています。

▶病院全体に感染症対策の活動を周知する「新型コロナウイルス診療最前線」。情報の共有だけでなく、実際の現場の状況を知ってもらうことにより、全職員の感染対策に対する意識向上を図る目的もある。これまでに3回発行している

周知文書を発行することで、病院全体で情報を共有する

職員全体に対しては基本的な感染対策や感染症に関する知識を習得して貰うことを目的に、4月には専門家を招いて研修会を開催するとともに、電子カルテ上で、個人防護具着脱訓練、院内医師による講義を配信しました。更に各部署の対策として、重症の感染症患者を受け入れる集中治療部、常に感染が疑われる患者に対応する救命救急センター、周産期医療に関わる産科病棟、NICU、MFICU、小児科病棟、中央手術室や救急病棟においては、それぞれの部署でワーキンググループを結成してシミュレーションを行い、患者の動線やゾーニング、受け入れフローやマニュアルを作成して貰いました。また、その他の部署においても入院患者から陽性反応が確認されたり、他施設より感染が疑われる患者が紹介されたりすることも想定され、職員一人ひとりが常に危機感を持って対応することが必要なため、感染対策室から各診療科に対応マニュアルの作成を依頼しました。作成されたマニュアルを確認し、部署ラウンドを行いながら直接意見を聞き取るなど、職員が不安なく業務を遂行できるように支援しました。この難局を乗り切るためのこれらの活動状況は、担当者のみでなく病院全体で情報を互いに共有し協力するため、直接患者と関わらない職員にも実際の現場を知ってもらうことが必要と考え、これまで3回にわたり「新型コロナウイルス診療最前線」として周知文書を発行しています。

▲感染症対策チームメンバー。後列は左より、原口、伊集院、時村、池田。前列は左より、濵田、山本、土屋。未だに収束が見えない新型コロナウイルスに対して、「院内感染を起こさない」をスローガンに一丸となって活動している

新型コロナウイルスを院内に持ち込まないようどれだけ対策を行っていても、完全に排除することはできません。そのため万が一持ち込まれた時に備え、常日頃から標準予防策の徹底がとても重要となります。ICTでは環境ラウンドを行い、マスク装着や手洗いの状況、休憩や食事をしているところを直接観察し評価しています。全職員を対象とする日々の健康管理チェック表は感染対策室で回収し、また業務外での感染対策や県外移動の制限など、周知文書を発行することで意識向上を図っています。

他施設との連携を通し、自施設の状況を振り返る

入院患者の中には、クラスターとなった高齢者施設から搬送された方も多く、重症化した症例も経験しました。自施設の感染対策を徹底することも重要ですが、感染管理認定看護師として、他の医療機関や高齢者施設における日常の感染対策を確認する役割もあるのではないかと考え、院外活動も積極的に行いました。行政や医師会、看護協会、県内の感染管理認定看護師の方々と情報を共有し連携をとりながら、17施設を直接訪問しました。他施設の状況を知ることで自施設の対策のあり方を振り返る機会にもなり、今後も継続して活動していきたいと考えています。

再び迫る、感染拡大の波を乗り越えるために

第1波～3波に続いて再び感染拡大の波が押し寄せてきており、油断できない状況が続いています。「院内感染を起こさない」をスローガンに、職員が一丸となってこの波を乗り越えることができるよう感染対策室は引続き活動していきます。

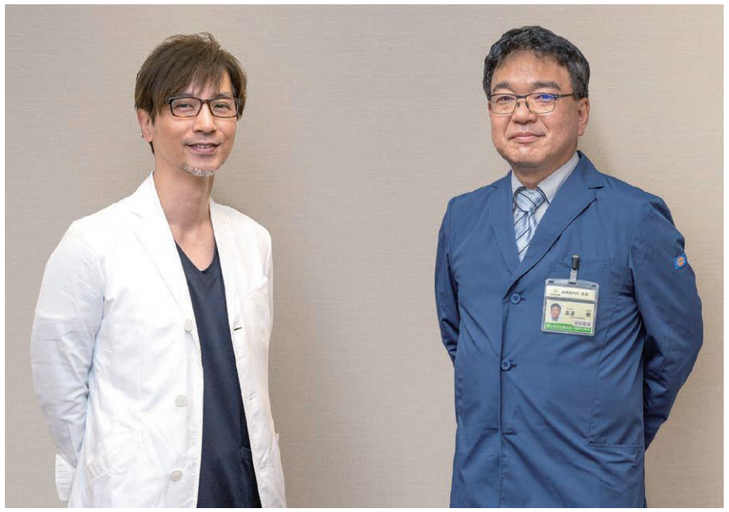
土屋 香代子（つちや・かよこ）
感染対策室　主幹
感染管理認定看護師

感染対策室長
時村 洋（ときむら・ひろし）
日本脳神経外科学会専門医・代議員・指導医
日本脳卒中学会専門医・代議員／医学博士
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本脳神経外科コングレス
Congress of Neurological Surgeons会員
日本臨床神経生理学会認定医・代議員
日本リハビリテーション医学会
日本整容脳神経外科研究会幹事
日本脳腫瘍の外科学会代議員

市立病院×かかりつけ医「鹿児島医療連携」最前線

鹿児島市立病院では、地域の医療機関（かかりつけ医など）と相互に円滑な連携を はかりながら、患者さんが適切な医療を受けられるよう積極的に取り組んでいます。

CASE 01



谷合 洋造 医師
豊島病院／脳神経内科 診療部長
日本内科学会認定内科医／日本医師会認定産業医／日本神経学会会員／日本脳神経血管内治療学会会員／日本抗加齢医学会認定抗加齢医学専門医

×

渡邊 修 医師
鹿児島市立病院／脳神経内科 部長
日本神経学会専門医 指導医（専門分野）神経内科／日本内科学会総合内科専門医 指導医／日本臨床神経生理学会 筋電図分野認定医／日本臨床神経生理学会 脳波分野認定医／日本認知症学会専門医 指導医

シームレスな連携で安定した医療を届ける

渡邊　当院の脳神経内科は、「脳神経チーム」と「脳卒中チーム」の2チームで治療に当たっていますが、貴院には両チーム共々いつもお世話になっています。

谷合　こちらこそいつもありがとうございます。当院は回復期の病院として貴院と連携して3年になります。緊密な連携と、大病院でありながらもフットワークの軽い渡邊先生のスタンスがあってこそ、いい連携がとれていると感じています。

渡邊　ありがとうございます。通常だと、治療と治療の間にタイムラグができてしまいますが、シームレスな連携が可能なので大変助かっています。しかも繰り返しの治療が必要な患者さんが多いため何度も連携が必要ですが、その点においても安心して連携することができています。

谷合　当院は騎射場にあるので物理的な距離が近いということも患者さんにとっては大きなメリットですし、貴院で行っていた治療を引き続きこちらでも行えるのも私たちの強みだと思っています。

高度な医療体制で万全の状態を常にキープ

渡邊　毎回感心させられるのが、貴院から戻ってきた患者さんの状態がとても良好であることです。きっとリハビリスタッフのみなさんが優秀なのでしょうね。

谷合　ありがとうございます。当院では理学療法士、作業療法士のほかにも言語聴覚士も多数在籍していますし、非常勤ですがリハビリのドクターもいるので、嚥下造影検査や喉頭内視鏡検査も可能です。また院内にはMRI、CTもあるので、リハビリ中の急変にも対応することができます。

渡邊　非常に心強いですね。急性期の病棟は限られているので、貴院のおかげで新規救急患者を受け入れることができます。当院も4月から9人体制となり、さらにパワーアップしました。これからも鹿児島の患者さんを一人でも多く救えるよう、お互いしっかりと連携していきましょう。

谷合　私たちも貴院の水準に合わせられるよう今後も努力していきます。よろしくお願いします。

医療法人 敬親会
豊島病院

診療科目　外科、脳神経外科、内科、脳神経内科、消化器内科、放射線科、リハビリテーション科

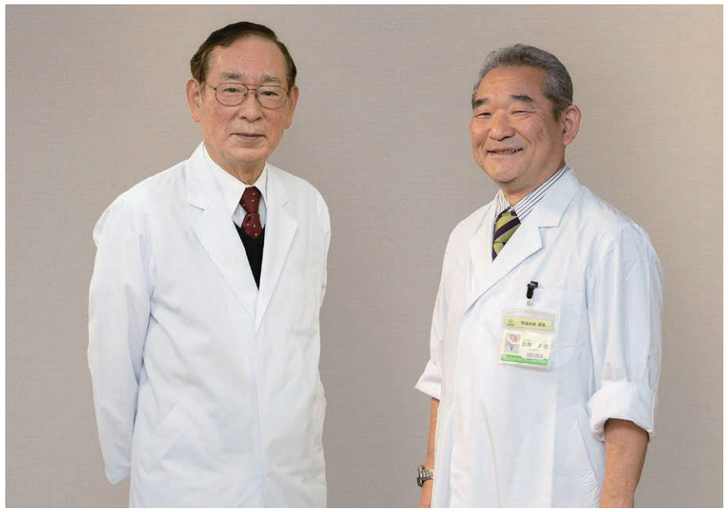
■住所／鹿児島市下荒田3丁目27-1
■TEL／099-253-0317
■URL／http://keishinkai-med.jp
■駐車場／15台
■アクセス／鹿児島市電「騎射場」電停を下車、荒田八幡方面へ徒歩2分

ホームページ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～18:00	○	○	※	○	○	／	／	／

※水曜日の午後の診療は14：00～16：00となります

CASE 02



森岡 康祐 医師
鹿児島市立病院／形成外科 部長
日本形成外科学会専門医・評議員／日本熱傷学会専門医・評議員／日本創傷外科学会専門医・評議員／日本救急医学会専門医／皮膚腫瘍外科指導専門医／日本マイクロサージャリー学会評議員／小児形成外科分野指導医／再建マイクロサージャリー分野指導医／東京女子医科大学形成外科非常勤講師／日本大学医学部形成外科非常勤講師／医学博士

×

馬場 國昭 医師
徳田・馬場クリニック／院長
日本呼吸器学会呼吸器専門医／日本外科学会外科専門医／日本熱傷学会熱傷専門医／医学博士

30年以上にわたる連携で地域の熱傷治療に貢献

森岡　長年にわたり、貴院とは熱傷に特化した連携を行なっています。もう30年以上になるでしょうか。

馬場　そうですね。初代部長のときから既に貴院とは連携を行なっているので、そのくらいになりますね。当院にも重症な患者さんが運ばれてきますが、手術が必要な場合や高齢者で合併症がある場合、また乳児で血管確保が難しい場合などは貴院にお願いしています。

森岡　緊急度の高い重症熱傷の場合は、当院の集中治療部とも連携しています。退院後はまた馬場先生にお願いすることも多いですね。時間の経過とともに皮膚の状態も変わってくるので、またその際に連携することがあります。

馬場　はい。熱傷の後の拘縮をとるための再手術など、一人の患者さんを数年にわたり、一緒に診ていくこともありますね。

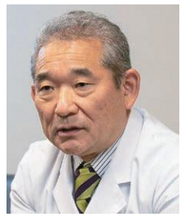
熱傷治療のプロとして地域のためにできることを

森岡　当院は広範囲重症熱傷をはじめ、鹿児島県内でも熱傷の治療を専門的に行なっていますが、貴院も地域の中で「熱傷といえば徳田・馬場クリニック」と誰もが信頼を置いているクリニックですよね。

馬場　ありがとうございます。1920年代に開院しているので、約100年前から同じ場所で治療に当たっています。

森岡　そういえば馬場先生は、長年のデータをまとめて論文にされたんですよね。

馬場　はい。去年の3月に26年分、約50,000症例を原因別・年齢別にまとめたものを日本熱傷学会誌に論文を発表しました。そこで、最近は子どもの患者さんが減ってきていることが分かりました。少子化も原因かもしれませんが、家電にさまざまな安全装置が備わっていることも理由の一つかもしれません。



森岡　そうなんですね。これからも今までどおりしっかりと連携をとりながら、地域の患者さんをともに支えていきましょう。

馬場　こちらこそよろしくお願いします。

医療法人清和会
徳田・馬場クリニック

診療科目　外科、胃腸科、呼吸器科、皮膚科

■住所／鹿児島市伊敷2丁目1-10
■TEL／099-220-5471
■駐車場／21台
■アクセス／「伊敷町」バス停から徒歩すぐ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～18:00	○	○	／	○	○	※	／	／

※ 土曜日の午後は14:00～16:00までとなります

病院広報・医療連携誌
PARTNERSHIP
鹿児島市立病院だより
Vol.36
2021.5

6階北病棟スタッフ(左より中澤、長尾、野崎、隈、中山、堀、五反田)

■発行日／2021年(令和3年)5月　■発行者／〒890-8760 鹿児島市上荒田町37番1号 坪内博仁[鹿児島市立病院長(事業管理者)]　■担当者／医療連携・入退院センター
■連絡先／TEL.099-230-7100　FAX.099-230-7101　http://www.kch.kagoshima.jp/

編集後記
Editor's notes

5月12日、新型コロナウイルス感染症における県病床確保計画に基づく区分がついにフェーズ4となりました。そのような中、鹿児島市立病院は新しい体制を迎えました。インタビューシリーズでは上村聡美新看護部長が紹介されています。また新たな診療科部長他、新任医師のごあいさつもご覧下さい。特集記事としては新組織体制、画像診断部門を取り上げました。今回もコロナへの取り組みを紹介します。医療連携最前線としては、脳神経内科、形成外科を取り上げました。新型コロナウイルス感染拡大の状況は予断を許しません。気を引き締めて頑張りましょう。